

平成 22 年 6 月 25 日現在

研究種目：基盤研究(C)
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19520266
 研究課題名（和文）フォルジャー図書館所蔵のシェイクスピア・フォリオにおける読者の書き込み
 研究課題名（英文）Marginalia left in the Shakespearean Folio Copies in the holdings of The Folger Shakespeare Library

研究代表者
 住本 規子 (SUMIMOTO NORIKO)
 明星大学・人文学部・教授
 研究者番号：10247174

研究成果の概要（和文）：17世紀に出版されたシェイクスピア・フォリオに、18世紀のエディションの新装置（具体的には、作者評伝、整備された登場人物表、ト書き、幕場割り表示、語注や校訂注、校訂された本文、そして場面やセリフの評価標識、材源情報などの中から選択的に）を手書きで移入するという18世紀の読者行動が、明星大学所蔵本(MR733)だけでなく、フォルジャー図書館所蔵本にも複数保存されている行動であることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：By examining the holdings of the Folger Shakespeare Library, this project has discovered that there exists the eighteenth century readers' customising activity of Shakespearean Folios by way of pen and ink installation, onto their own copy, of the new editorial devices and contributions such as source information, character lists, fuller stage directions and scene designations, and other editorial annotations and emendations.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：英米・英語圏文学

キーワード：シェイクスピア・読者論・書き込み・18世紀・エディション・フォリオ

1. 研究開始当初の背景

(1) 動機：本研究代表者が調査した明星大学所蔵のシェイクスピア・サード・フォリオ (MR733) には、ページ下欄外に手書きで Sir Thomas Hanmer 編纂の『シェイクスピア作品集』(1743-44年刊) からその脚注を丹念にインク書きした書き込みが多数残されている。代表的な例として *The Tempest*

3.3.48 の 'Each putter-out of five for one' に下線を書き入れ(A)、ページ下欄外余白に Hanmer 本, Vol 1. Sig. G1v にある注釈 (C) を書き写している事例 (B) の画像を示す。

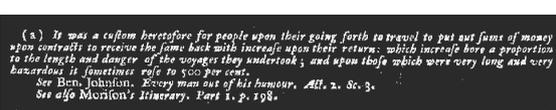
(A)



(B)



(C)



このような読者・所有者の行動をどのようにとらえたらよいのか、という問題意識が本研究の動機となった。

(2) 学問的背景

①フォリオについての書誌学的研究:ファースト・フォリオについては、Peter Blayney, *The First Folio of Shakespeare* (Folger,1991) や Anthony J. West, *The Shakespeare First Folio: The History of the Book, I & II* (Oxford UP, 2001, 2003)を参照することになる。これらの著書には書き込みが残された、ファースト・フォリオ・コピーについて、簡単な言及が含まれている。セカンドからフォース・フォリオについてのまとまった研究はまだない。

②フォリオのマーヅナリア研究 : Yamada Akihiro, ed. *The First Folio of Shakespeare: A Transcript of Contemporary Marginalia in a Copy of the Kodama Memorial Library of Meisei University* (Yushodo Press, 1998)があり、本研究の方法論上のモデルと位置づけられる。

③マーヅナリア研究一般 : 1990年代以降になって本格化してきている比較的新しい研究分野である。研究開始時点でのそのもっとも包括的な成果は、H. J. Jackson, *Marginalia: Readers Writing in Books* (Yale UP, 2001) にみることができた。

各図書館所蔵本中のマーヅナリア情報はこの分野の研究の基礎であるが、R. C. Alston, *Books with Manuscript* (British Library, 1994) はその代表的な業績である。The Folger Shakespeare Library では、そのOn-Line 検索サイト Hamnet で閲覧可能な各コピーの書誌情報に MS additions and annotations の有無の表示が含まれている。

国内におけるマーヅナリア研究も近年活発になってきているように思われた。高宮俊行

氏を中心とする慶應義塾大学21世紀COEプログラムの一環として行われた展示会、「読書を読み解く書き入れ・書込み—東西文献資料と「読者」の心—」(2006年5月19日)はその好例である。展示書のなかに余白注釈の例があった。

④研究代表者は明星大学シェイクスピア・コレクション・データベース (<http://shakes.meisei-u.ac.jp/>) の構築に際し、画像採取対象を書き込みのあるコピーとしてきた。特に本データベースのサード・フォリオのセクションにて画像公開した、上記、MR733の存在は本研究の着想を促した。書き込みを転記し考察を試みた結果 1743-44年に出版されたSir Thomas Hanmerのエディションから注釈を書き写した書き込みであることが判明したからである。

2. 研究の目的

本研究ではアメリカ合衆国の Folger Shakespeare Library 所蔵のフォリオを集中的に調査し、一定のデータを収集したうえで、明星大学の MR733 のような書き込み行動を相対化する研究の可能性を探るとともに、マーヅナリアのあるフォリオのセンサス作成の可能性と有用性についてのパイロット的研究とすることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究における研究方法は、The Folger Shakespeare Library (米国・ワシントン)にでかけて、同図書館所蔵のフォリオを読者による書き込みの観点から実地調査することとあわせて、調査で得られたデータの分析のために関連研究のリサーチを平行して行うことにほぼつぎる。

1冊のフォリオは約1000頁あり、実地調査はその頁を慎重に繰りながら、書き込みを見つけてはエクセルファイルに記録するという作業になった。対象が極めて貴重な古版本であり、保存状態によっては閲覧許可を得られない、もしくは、45度、60度といった開頁制限が課せられることがあり、限られた時間内での調査そのものは厳しいものであった。幸い3年間の研究期間が与えられ、3回の短期訪問(のべ約6週間)を繰り返すうちに、現地図書館員、貴重書担当キュレーターとのあいだに信頼関係が築かれ、彼らの研究に対する献身的な協力の賜物として、最終的には必要なすべてのフォリオコピーへのアクセスが実現した。もちろん、上述のような制限のあるコピーについては、その一部のみにて、全ページを調査する事はあきらめざるを得なかった。

書き込み転写の量と精度を確保ページの
で、図書館担当部局の許可が得られた範囲で
マイクロフィルムないしは TIFF ファイルで
の画像データも、可能な限り入手した。画像
上で、書き込みの転写作業を継続したが、実
地調査とこの作業とは相互補完関係にある
ことを作業が進むにつれ実感することにな
った。

転写結果を 18 世紀諸版のテキストと比較
校合し、書き込みをした読者が使用した版の
特定を試みた。

(1) 研究の主な成果

①フォルジャー図書館所蔵、各フォリオにお
ける書き込みの概要：総じて 19 世紀の華麗
な製本に再製本された堅牢なコピーよりは、
製本保存状態の悪いコピー（保護のため、ペ
ージを開く角度は 60 度以内、45 度以内とい
う制限下での難しい調査となる）の方に、本
課題のデータが多く見つかる傾向が見られ
た。18 世紀読者の書き込みが、19 世紀の古
書マーケットでどのような評価対象となっ
ていたかの証と言えよう。再製本の過程で、
マージンにあった書き込みがカットされ、た
くさんの書き込みがあった形跡だけが残さ
れたケースもあった。書き込みは古書として
のフォリオの価値によく無関係、悪くすれ
ば価値を引き下げやっかいもの、と認識さ
れていた可能性が観察される。

以下、4 版のフォリオごとに、特徴ある書
き込み例、よくみられるタイプの書き込み、
そして、本課題がターゲットとするタイプ、
すなわち、特定のエディションと密接な関係
性の見て取れる（できればフォリオ全体に施
してある）、書き込みに分けて、調査結果の
概要を記す。

【ファースト・フォリオ】

Hamnet によれば、同図書館のファースト・フ
ォリオ（請求番号 STC 22273 Fo.1 no. 01 以
下）79 冊のうち 23 冊に何らかの書き込みが
残されている、とされる。書き込みが所有者
その他の名前だけのコピーをのぞき、本課題
では 15 冊を実地調査した。

大多数は限られた量のページに書き込み
が残るコピーであり、ユニークな内容として
は、校正指示紙やこどものお絵かきや文字の
おけいこ（48）、遊び紙への ‘Wife and
servant are the same’ なる詩の書き込み（23
女性所有コピー）、少量ではあるが本人の書
き込み（ト書き）のある Sir Thomas Hanmer
所有本（16）。単発的な翻案上演の情報（45）
や登場人物表の書き込み（57、73 等）、劇全体
への感想（73）。x や +、manicule（指差し
をしている手の絵）などの記号や下線、散発
的な校訂やト書きの追加などはよく見られ

る書き込みであった。

明星 MR733 のような、フォリオ全体にわ
たって 18 世紀エディションと密接なつなが
りのある書き込みをもつ、すなわち、本課題
のターゲット・コピーとしては、70 が該当す
ることがわかった。現地で転写した *Tempest*
および、入手できた TIF ファイルによる画像
での転写資料（*Twelfth Night* と *Macbeth*）
を分析したかぎりでは、1745 年刊のいわゆる
「Hanmer 二版」が使われたと判断される。

【セカンド・フォリオ】

セカンド・フォリオ（請求番号 STC 22274 Fo. 2
no. 01 以下）58 冊と 15 の fragments のうち、
書き込みのあるとされるコピーは 29 冊と 1
点の Fragment。うち、26 冊と 1 点を実地調
査した。比較的新しい製本や補修作業の進ん
だ製本のコピーが多かったファースト・フォ
リオとちがい、セカンド・フォリオでは製本
の保存状態が悪いコピーが多く、調査が難航
する場合も多かったため、ターゲット・コピ
ーである可能性を感じながらも、それを確認
するにたるデータを収集できなかったケース
が複数残った。以下はデータをとれた範囲
で判明した成果である。

スペインのイエズス会神学校のコピーに
残る *Measure for Measure* の削除をはじめ、
学生への教育的配慮に基づくと思われる検
閲目的の書き込み（7）、編纂者 Lewis Theobald
の書き込み（20）、Boydell のシェイクスピア
・ギャラリーの絵が描くテキストの箇所
のサイド・マージンに画家の名を書き込んだ
19 世紀はじめの書き込み（10）、王政復古期
から 18 世紀にかけての改作情報（17）、プロ
ンプトブックとしてのマーキング（41）、医
師 John Sherwen（1749-1826）のシェイクスピア
研究の成果（ファースト・フォリオとの校合
や諸版の注釈や見解）（53）、女性読者・所
有者 Mary Elmer のコメント（*Anthony and
Cleopatra* の 2 カ所）（57）。下線、x、+、
* などのマーキング、散発的に加えられた校
訂やト書きの追加などは多くのコピーにみ
られた。

21 は、どのエディションとも完全には一致
しない書き込みが全編にわたって書き込ま
れていた。テキストに対しても単語や句の置
き換えをさかんにする校訂ぶりは、18 世紀後
半に顕著となる国民的嗜好としてのシェイ
クスピア本文への関心のありかたを反映し
ていると思われる。

ターゲット・コピー：24。また、22（*Temp*, *TGV*,
Wives, *Measure*, *MND* のみ）、28, 48, 58 も
ターゲット・コピーに加えても良いかも知れ
ない。

【サード・フォリオ】

サード・フォリオ(請求番号 S2914 Fo. 3 no. 01 以下) 24 冊のうち、書き込みがあるとされるコピーは 9 冊、そのすべてを実地調査した。

19 世紀の書き込みをもち、複数のコピーからの「寄せ集め made-up copy」である 3 と、蔵書表だけに書き込みのある 4 は詳細調査の対象からはずした。

特徴ある書き込みとしては、登場人物表の一部追加(1, 2)、1769 年の詩の書き込み(13)、manicule (1)、一部作品のト書きへの校訂(2)、18 ページ分(Hamlet 後半)のみのポウプ式幕場割の書き込み(16)が見つかった。

22 では、全体にわたって書き込みが残されているが、書き込み筆者の個人的な見解とおもわれる脚注があるなど、特定の版本とのつながりは確定できない。

23 は、それほど書き込みの量は多くないが、校訂が主で、印刷字面を損ねないよう、破線をもちいた下線とサイドマージンなどの空きスペースを利用した丁寧な書き込みが特徴である。該当する版本が見つからないト書きの書き込みも一部観察されるなど、特定の版本とのつながりは確認されない。*Pericles* 以下、シェイクスピア外典と分類される部分にも書き込みがあるが、このことは 23 が、大変珍しい事例であることを指し示していると同時に、特定の版本とのつながりよりも、読者個人の読書活動そのものの記録としてとらえるべき事例であることを示していると言えよう。

ターゲット・コピー: 20 は版本と書き込みの照応の点で、明星 MR733 に酷似した事例であることが全書き込みの転写を分析した結果判明した。19 世紀にポウプ本人の書き込みではないかと疑われた経歴が示すように、ポウプ本を下敷きとし、特にその幕場割りと脚注の移入に主な関心を寄せ、ポウプが脚注に格下げした本文を線で囲んで表示すること、自らも拡充に熱意を示した優れた台詞や場面へのマーキングがこのコピーの書き込みの特徴である(発表論文①、学会発表③を参照)。

【フォース・フォリオ】

37 コピー中 20 冊に書き込みがあるとされ、そのうちの 17 冊について実地調査をした。

ストラットフォード・アポン・エイヴオンのシェイクスピア墓所に関する情報メモ(8)、3 作品に王政復古から 18 世紀初頭にかけての翻案上演情報(26、推定年代はおなじだが、異なる筆跡を含む)、登場人物表(6: *King John* に 1760 年の上演をふまえた俳優名入り; 35: *Romeo and Juliet* など 4 作品のそれを、それぞれ別紙に記入し綴じ込んでいる、19 世紀の Noel Elison 筆跡; 少なくとも *Romeo* の人物表は Collier 版に酷似)、18 世紀後半の筆跡

だが、Warburton, Johnson, Theobald, M[for Malone?] を適時複数引用した校訂注など(32、合い紙を綴じ込んで注やメモをたっぷり書き入れることができるように製本し直したコピー)。散発的な校訂、下線、x や manicule、二重ハイフンなどをもちいたマーキングは多くのコピーに観察された。

12 は「手放せば 10 ポンドになるところだったが、手放したくはなかった」と署名とともにメモ書きしている Sarah Burns なる 18 世紀の女性読者・所有者の書き込みがたくさんあった痕跡があるが再製本時にほとんど切り落とされていて大変残念なコピーである。そのほか、製本工房で糊付け工程用パッドとして使われた痕跡ではないかとフォルジャー図書館の専門部署が鑑定した奇妙な使われ方をしたコピー(13)、などがあるが、ターゲット・コピーと判断できるコピーは、フォース・フォリオでは見つからなかった。

②明星 MR733 の相対化について

収集蓄積できたデータは、特定の版本の幕場割りやト書き、本文への校訂や注釈を 900 頁超のフォリオ本に手入力するタイプの書き込みが、MR733 だけの特異な出現ではないことを明確に示すことになった。全書き込みの転写データを採取できるコピーは補助資料となるマイクロフィルムを入手できたもの(3 年間で 17 冊)に限られ、2 作品分のみだが極めて鮮明なデジタル画像を入手できた 1 冊を加えても 18 冊のみであった。その中では、F1-70、F2-24、F3-20 が MR733 に最も近い典型的な事例と判明した。

最後に、このような読者行動の位置づけについてであるが、*Used Books* (2008) の著者 W. H. Sherman は、ルネサンス時代の英国では、読者は書物を、自ら積極的に手を加えることでより完成された状態にカスタマイズするべきものと捉えていたと指摘する。版本から情報を落とし込む読者活動は 18 世紀版カスタマイズ行動であったと考えられよう。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

①確認できた先行研究: 次の 2 件が現在までに把握できたものである。

(A) インターネットを介して検索可能な同図書館カタログ Hamnet に記載されている、手書き書き込み(manuscript additions)の有無ならびにごく簡略な記述。

(B) 館内にタイプ製本のかたちで配架されている、R. L. Widmann, *Manuscript notes in editions of Shakespeare in the Folger Shakespeare Library* (1972) に記載のある 16 冊のフォリオに関する

短い情報

これらの先行業績を本研究では調査対象のコピーを抽出する際に利用した。実際の調査から得られた書き込みの転写記録をはじめとするデータは国内外ともにはじめてまとめられるものである。

(3) 今後の展望：

- ①転写記録を主体とする成果の出版を目指して、データの利用価値の高い提供フォーマットの構築が必要と考える。
- ②1902年刊行のSidney Leeのものを受けて、Anthony Westが2003年にファースト・フォリオの新しいセンサスを刊行したが、セカンド・フォリオ以下フォース・フォリオまでの各フォリオについてはセンサスが未だ存在していない。この状況では、書き込みのあるフォリオの世界規模での追跡は一研究者の手には余ると言わざるを得ないが、読者によるフォリオ・カスタマイズ行動の総体を把握するためには、利用できる研究ネットワークを探しつつ、可能なかぎり、対象コピーの発見につとめていく必要がある。
- ③シェイクスピア・フォリオ以外の範疇では、こうした同時代の先端的知の貢献を移入するタイプの古版本のカスタマイズは存在したのであるか。フォリオのカスタマイズ行動そのものをより広い文脈で相対化することもまた求められるべきであろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

- ①住本規子、「フォリオ本への書き込み——明星 MR733 の相対化に向けて——」、『明星国際コミュニケーション研究』、査読無、創刊号、2009、37-54。

[学会発表] (計 3 件)

- ① SUMIMOTO, Noriko. 'Updating Folios: Customising Readers' Reconfigurations'. Shakespearean Configurations: An International Symposium on Shakespearean Forms from the 16th to the 21st Century. Wednesday 29 September to Friday 1 October 2010, University of Montpellier (France).
- ② 住本規子、「シェイクスピア・フォリオ本の18世紀読者によるカスタマイズ行動について」、日本18世紀学会第32回全国大会、2010年6月26日、新潟大学 脳研究所。

- ③ 住本規子、「18世紀の版本とフォリオ本への書き込み」、日本シェイクスピア協会第47回シェイクスピア学会、2008年10月11日、岩手県立大学(滝沢キャンパス)。

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

住本 規子 (SUMIMOTO NORIKO)
明星大学・人文学部・教授
研究者番号：10247174

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし